

# ヒバクシャ国際署名をすすめる青森県連絡会 「第4回総会・記念映画会」開催報告

作成：連絡会・鎌田敦子

1. 開催日時 2020年10月11日(日)13時～15時
2. 開催場所 シネマディクト（青森市古川1丁目21-18）
3. 参加者 62名（内訳：被爆者の会5、原水禁3、新婦人6、平和委1、原水協7、アイ女性3、  
民医連2、平和労組1、個人15、津軽保健5、青森保健1、県民生協2、  
県生協連3、県労連1、民青1、社民党1、青商連1、国賠1、林退会1、  
東奥日報1、稲塚監督）＊署名5筆
4. プログラム
  - 1) 開会挨拶・活動報告 連絡会事務局 鎌田 敦子(司会・進行)
  - 2) 映画上映 「ヒロシマ・ナガサキ 最後の二重被爆者」  
ご挨拶 監督・プロデュース 稲塚 秀孝 監督
  - 3) 被爆者より 青森県原爆被害者の会 藤田 和矩 会長
  - 4) 閉会挨拶 連絡会共同代表 青森県生協連 平野 了三 会長



司会進行：鎌田 敦子さんと会場の様子



9.26 核兵器廃絶デーの街頭行動

## 5. 集会の概要

13時、連絡会事務局鎌田の司会で開会された。共同代表の田中正司さんが入院療養中のため、司会者が田中代表起案の「青森県連絡会の終結について」を読み上げ、この集会をもって連絡会を解散することが報告された。続いて、この1年間の活動報告を行い、署名が116,202筆に到達し、県民10人に一人が署名したことになること、青森県議会9月議会に「核兵器禁止条約に日本の参加を求める意見書提出を求める請願」に取組み、全会派、全議員への訴えの中で、自民党を除く全会派からの賛同を得たものの惜しくも不採択になったことが報告された。また、2020年の会計報告があった。

13時10分、映画上映が開始となった。広島・長崎の二重被爆者となった山口 彊さん、福井 絹代さんを通して、被爆の実相とその後の人生を追い、二重被爆者としての生きる意味を追求してきた被爆者から何を学ぶのか問いかけるものであった。二重被爆者は165人以上いるといわれているが、国はその詳細を調べようとはしていない。二重被爆者は偶然だったのか、必然だったのか。当時、広島と長崎には軍港として日本軍の重要な施設が置かれ、軍だけではなく一般の技術者などが広島と長崎を往来していた。二重被爆者の山口 彊さんは、国連にも出かけて核兵器の廃絶を訴えてきた。「もう誰一人死んでほしくない」との気持ちを、「『人間の筏』はいらない」「one for all, all for one」と伝えました。この山口さんの意思をついで、娘さん、孫さん、そして14歳のひ孫が誰に強制された

わけではなく今語り部となっている。被爆者が高齢となっている今、「伝える、つなぐ、広げる」活動が求められている。

この後、稲塚監督のこの映画にかける思いが語られた。

14時40分 青森県原爆被害者の会藤田和矩会長から映画の感想とこの間の取組への感謝のご挨拶と引き続き核兵器をなくすために署名活動に協力して欲しいとの呼びかけがありました。

最後に、連絡会共同代表 青森県生協連平野了三会長より閉会の挨拶がされた。

平野会長は、この10月にも批准国が50カ国に達する見込みであること、1月には核兵器禁止条約の発効、NPTの開催などの情勢に触れ、12月末までの署名に協力を呼びかけ、連絡会解散後も核兵器廃絶への運動を広げていこうと呼びかけた。

## 6. 参加者の感想の紹介

### <映画の感想>

- ・山口彊さんは、90歳を超え、よく生存されて下さった。そして、体験をお話くださり、この映画になったことは私たちにとってとても重いけど、大切なバトンを受け取ったと思います。事実を知った私たちは、これから自らも語り部の気持ちで、一人でも多くの人に伝えていかねばと思います。
- ・2世～4世の家族の今後の大変さを思います。
- ・山口さんの志を受け継いで活動を続けていきたい。連絡会は解散しても、今後も共同の取り組みを考えてもらいたい。
- ・単純にそんなこともあるのか、何と不幸なことかと思いましたが、伝える真摯な活動を見て胸が熱くなりました。ご家族の受けとめ、引き続き活動にも敬意を表します。本人の詠んだ詩を改めて学びたいと思いました。
- ・今まで考えたことがないようなことが理解できた。
- ・大いに感動を覚えました。たまたま朝日新聞の地方版の記事を見て参加しました。参加できて大変良かったです。私は広島の世界大会に2回参加しましたが、運動が引き継がれていることに良かったと正直な気持ちです。
- ・被爆者方々の辛い体験に、どんなに苦しく悔しかったことかと思われます。核兵器は決して保有してはならないと思います。改めて核兵器廃絶を推し進めなければと感じました。
- ・核は人間にあってはならないもの、命のバトンタッチ、伝えなければならないことはいつからでも誰にでもできる、声をあげていくことが大事と思う。今まで見たこともない写真もあり、再認識しました。
- ・原爆の実態を知るうえで大きな役割を果たす映画だと思います。多くの人に見ていただくための努力が大切と感じました。
- ・もっと早くこの映画をみんなで見たかった。「今日が区切りの日にしたい。」絶対に終わりにしてはいけない。日本政府の態度を私たちは許してはならない。
- ・山口さんの娘さんが、山口さんが亡くなったときのインタビューで、私の涙はセンチメンタルの涙、被爆者の人の涙は血の涙と言っていました。戦争はもちろん経験していませんが、このコロナ禍、「生きている間にこんなことに遭遇するなんて」と思ったりしているところでした。不平・不満を言いがちで、気持ちが沈むところですが、そんなことも言っていられない。この戦争のない平和な時代に生まれたことに感謝する気持ちとこの平和の続くことを祈るばかりです。
- ・二重に被爆された方々の重い、重い言葉をスクリーンに見て、残った私たちの責任を感じます。若い世代に伝えていきましょう。
- ・新聞などで二重被ばくの話は聞いていたのですが、ドキュメンタリーで実際の声が聴くことができ

勉強になりました。リアルに体験した人の声はやっぱり実感することができたのはとても良かったです。この映画をいろんな人に見ていただきたいと思いました。映像の中で、広島に落ちた原爆と長崎に落ちた原爆の種類が違うのは、亡くなった方々の姿が全く違うことがわかり、よく理解することができました。

<全体を通して>

- ・青森県での初めての上映、とてもありがとうと言いたい。
- ・短い時間でしたが、それぞれの思いがよく伝わってきて大変良かったです。
- ・被爆は体験したものでないとわからないと思う。
- ・力強い人たちだと感じました。
- ・「二度と繰り返してはならない」この一言です。そのために署名を。
- ・原爆の廃絶は必ず成し遂げなければならないと思います。日本はあの条約を批准しなければならないと思います。
- ・青森での初の上映という事でした。そういう機会に恵まれ感謝です。
- ・良かったです。マイクの調子が少し悪かったかもしれませんが。監督さんの生の声が聞けて良かったです。

<被爆者の体験や思いを受け継いでいくために>

- ・映像で訴えることはとても強い力になる。各地、各団体の中で上映会を広げたいです。
  - ・私は今79歳ですが、皆さんとできる限り手を取り合って頑張ります。
  - ・上映の機会を多くもってほしい。
  - ・多くの若者にぜひ知っていただく努力が必要と思います。アメリカの若者にぜひ見せたい。
  - ・この映画を見ていただくことも一つの方法だと思います。
- 紙芝居も一度見てみたいです。(山口彊さんのお孫さんが作った)難しくなく、とっつきやすいかなと思います。